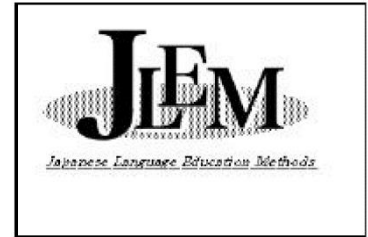


JLEM News Letter Vol.48



第53回日本語教育方法研究会開催

発表 39 件 参加者 106 名

第54回は東京大学にて

2019年9月14日(土)、第53回日本語教育方法研究会が福島大学(福島県福島市)で開催されました。中川先生、学生の皆さん、大変お世話になりました。

前日9月13日に運営委員会が開かれました。議事については、このレターの記事をご覧ください。

次回の第54回研究会は2020年3月14日に東京大学(東京都文京区)において開かれます。みなさまふるってご参加ください。

開催を終えて

中川 祐治
(福島大学)

第53回研究会は、2019年9月14日(土)に福島大学で開催されました。当日は、39件のポスター発表と、全体で106名の方にご参加頂き、活発な研究交流が行われました。

福島大学のキャンパスは福島市郊外にあり、電車の本数も少ないことから開始時間を調整したり、アルバイト学生の確保に苦心したり、昼食交流会では当初予定していた生協の食堂が臨時休業で使えないことが分かり、急遽、別の場所をセッティン

グしてケータイリングを発注したり等々、開催校の裏方の仕事を体験することができ、とてもいい勉強をさせて頂くことができました。

これまでこのような開催校の仕事をしたことがなく、またJLEM会員の同僚もおりませんでしたので、準備段階から会長の河野さん、事務局の中川さん、運営委員の方々に助けをもらいながら何とか役目を果たすことができました。至らぬ点多々あったかと思いますが、ご参加くださった皆様に改めて感謝申し上げます。

次回開催にあたって

向井 留実子
(東京大学)

第54回研究会は東京大学文学部で開催されることになりました。東京大学で行われるのは、2013年に20周年記念として日本語教育センターが行った第40回研究会以来で、2回目となります。本学には、2019年5月1日現在、4,000人を超える留学生が在籍しており、3つのキャンパスの複数個所で日本語教育が行われています。それぞれの教室には特徴があり、今回研究会の行われる文学

部の日本語教室では、日本の文学や歴史、思想の研究者を目指す留学生のニーズに合わせて、古典文法やくずし字、日本史、宗教などの授業も行っています。

当日の会場は、本郷キャンパスの(赤門ではなく)正門近くの法文1号館と2号館です。いずれも登録有形文化財になっていて非常に古いため、ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、研究会の合間に内田ゴシックの造形美も楽しんでいただければ幸いです。

なお、キャンパス内は学内者でも迷ってしまうほど複雑なため、案内の張り紙をできるだけ多くしてお迎えしたいと思っておりますが、念のため時間に余裕をもってお越しください。多くのみなさまのご発表、ご参加を楽しみにしております。

第14回JLEM優秀賞

JLEMの「優秀賞」は、①課題の設定やその検証の視点の独自性、②教育実践、研究成果の発展性、③ポスターの作り方(ポスターが見やすいか、内容理解を促進しているか)という3点を基準に審査され、優れた発表を行った会員に授与されるものです。また、優秀賞以外にも顕彰に値する発表があった場合には「奨励賞」が授与されます。第53回大会

では、会長、事務局、2名の運営委員で構成される JLEM 賞選考委員会で審査を行いました。結果は、以下のようにになりました。

「優秀賞」

村田裕美子(ミュンヘン大学)「『書く』活動は発話の産出にどう反映するか—発話量と語彙の広がり度の計量的分析—」

「奨励賞」

近藤行人(名古屋外国語大学)・田中典子(名古屋大学)「対話的評価活動を通じたスピーチ改善の試み」
藤浦五月・宇野聖子・桑野幸子(武蔵野大学)「『話し合っただけじゃダメ!』を育むためのディスカッション教材開発—アイデア積み上げ過程を評価するには—」

優秀賞の村田氏の発表は、「書く」活動がその後の発話の量や内容に影響を与えていることを計量的な視点から明らかにしたもので、その課題設定・研究方法が明確で独自性があったこと、今後の研究・教育につながる発表だったことが高く評価されました。

一方、奨励賞の近藤氏らの発表は、学習者自身が対話を重ねながらスピーチの評価基準を1から作成することでモニタリング能力の養成、クラスにおけるスピーチの価値観の形成を試みたものでした。この発表は、一貫して主体的な学習を取り入れるという点において独自性があり、新たな指導法の可能性を探るものでした。また、藤浦氏らの発表は、開発したディスカッション教材を「アイデアを積み上げる」という視点から分析し、教材の課題を示したものでした。日々の授業実践と改善を重視し、まさに明日への教育実践につな

がる発表でした。

受賞者のポスターは本会のホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

(寺嶋弘道)

絡にあるとおり、今後、原則として机と電源の提供は行わないということにいたしました。ご協力をお願いいたします。

(河野俊之)

運営委員会報告

研究会当日の9月14日(土)午後には2019年度日本語教育方法研究会総会が開催されました。無事、総会として成立し、全ての議案について承認されたことをご報告いたします。また、研究会に先だって運営委員会が9月13日(金)に開かれました。今回12名の運営委員が参加し、参加できなかった委員からは委任状が提出されました。以下、総会での報告事項、承認事項について報告致します。

- ①会員数 2019年9月9日現在の会員数は603名になりました。
- ②2018年度の決算について 会計担当委員から2018年度の決算案の説明が行われ、承認されました。
- ③2019年度の予算について 2019年度の予算案の説明が会計担当委員より行われ、承認されました。
- ④運営委員の交代について 以下の委員の退任が承認されました。退任：増田真理子さん(東京大学) (企画・広報)、浜田麻里さん(京都教育大学) (企画・広報)
- ⑤口頭発表の質疑応答について 発表件数が増加していることから、今後、口頭発表の質疑応答は行わず、ポスター発表の時間確保を優先することとしました。
- ⑥ポスター発表における机および電源の提供について 事務局からのご連

事務局よりご連絡

●発表申し込み、会誌原稿提出の締め切り厳守のお願い

発表申し込みが近年50件を超えることも多く、会誌編集に従来のより時間がかかるようになってきました。そのため、締め切りを過ぎた発表申し込み、会誌原稿は受け付けませんので、ご協力をお願いいたします。

●発表者の会費支払期限について
発表者(複数の場合は全員)は応募時点で2019年度の会費(2019年4月からの新年度分)を支払っていただければなりません。1月6日(月)の正午時点で入金を確認できない方については、発表申し込みを受け付けることはできませんので、それを見越して、お早めにご入金をお済ませください。

●発表時の机および電源の提供について

これまで、発表者の希望に応じて机および電源を提供してきましたが、会場によっては、それが難しい場合も少なくありません。そこで、先日の総会で承認されたように、今後、原則として机と電源の提供は行わないということにいたします。発表時にプロジェクターを使用する場合には対応しますので、その旨発表申込時に記載してください。なお、いすに関してはこれまで通り全ての発表

者に提供します。

●発表をお断りする場合

本研究会では、発表申込者には原則として発表の機会を提供しますが、以下の場合には発表をお断りする場合がありますのでご承知おきください。

- ①特定の個人や集団を攻撃する内容のもの
- ②研究倫理上問題があると考えられるもの
- ③特定の教材、商品、サービス等を宣伝するもの

●発表者の所属先の記載について

発表者の所属先の記載のしかたにばらつきがあるため、今後以下のように統一いたします。

・原則的には(強い希望がない限りは)、組織名(大学名)のみ表記し、部局名(例: ~研究科, ~学部, ~センター)は付けないようにしてください。

・大学院生、学部生の場合には、「〇〇大学大学院生」もしくは「〇〇大学学部生」と記してください。

●研究会参加者によるポスター撮影について

JLEM賞などのために運営委員が撮影する場合を除き、研究会参加者によるポスター撮影については原則禁止とします。ただし、発表者の承諾が得られたときのみ撮影可能です。なお、口頭発表におけるスライドは撮影不可とします。

●住所変更等

JLEMでは、会員管理システムに登録された会員住所に会誌を郵送します。

住所変更が行われない、あるいは宛名不明のため、会誌が返送されてくるケースがあります。住所変更等があった場合は、速やかに会員専用サイトにてご自身で会員情報の変更をお願いします。

(中川健司)

J-STAGE について

現在、第25巻1号(2018年9月発行)までの記事をJ-STAGEにてご覧いただけます。それ以降のものについては、刊行後1年未満のため、書誌情報しか見られません。刊行後1年未満の会誌については、冊子をご覧ください。また、発表に応募される方は、引き続き以下の3点についてご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- ①JLEMでの発表応募は「J-STAGEでの公開の承認」を前提とすること
- ②編集担当が最終的な受理とした原稿を後で変更できないこと
- ③研究会当日に発表を行わなかった場合、その原稿はJ-STAGEで公開しないこと

(寺嶋弘道)

ご連絡先をお知らせください

下記の方々は当日入会をされた方ですが、入会手続きが済んでいませるので、JLEM日本語教育方法研究会(<https://secure.jlem-sg.org/>)の

「入会申し込み」より、申し込み手続きをして下さい。

なお、下記の方々の中に、お知り合いの方がいらっしゃる方は、恐れ入りますが、お伝えいただけますよう、よろしくお願いいたします。

鈴木聡子 藤田恭子 王夢蕾
福良直子 渡邊美和子

(敬称略, 10月28日現在)

●会費納入について

会費をお振り込みいただいた方で、以下の方のお名前が会員名簿で確認できておりません。お心当たりの方は事務局までお知らせください。

2015/09/19日付け 3000円振込み
「大野 裕」

2017/06/28日付け 3000円振込み
「オオタカ ヨウ」

2017/09/16日付け 3000円振込み
「王 夢蕾」

2018/03/22日付け 3000円振込み
「東野 美里」

2018/05/07日付け 3000円振込み
「ノムラ ユカリ」

2019/10/05日付け 3000円振込み
「山本 晃彦」

(敬称略, 10月28日現在)

(長谷川守寿)

日本語教育方法研究会

問い合わせ先: jlem-ml@jlem-sg.org

(レター編集: 本郷智子)